

A 大学附属病院における新規採用者への「感染管理」研修の評価

大川智美¹⁾ 橋元春美¹⁾ 光木幸子²⁾ 毛利貴子²⁾

¹⁾ 京都府立医科大学附属病院 ²⁾ 京都府立医科大学看護学科

【目的】A大学附属病院では、新規採用者に対し、院内感染対策の基本を理解し、指導を受けながら実践できることを目的とし研修を実施している。本研究の目的は4月に実施した新規採用研修後の評価から、今後の課題を明らかにすることである。

【方法】研究対象は、新規採用者の看護師58名である。研究方法：「感染管理」研修終了後に理解度確認ミニテスト(10問)とすべての研修終了後に調査票として今後への参考・内容の項目とその理由を自由記述で求めた。研修内容は、感染管理認定看護師による「院内感染予防の基本」の講義と感染管理リンクナースの支援により手洗いと採血の演習を実施した。倫理的配慮は、口頭で当研修は助成事業の一部であり評価指標として当データを用いること、提出は強制ではなく提出をしない場合でも不利益を被らないことを説明し、提出を持って同意とした。

【結果】1. 研修終了後の理解度確認ミニテストは、58名(100.0%)より回答を得た。正解率が100%に達しなかった項目は「採血に必要な防護具」87.9%、「針の取り扱いの3原則」89.7%「手洗いが必要な5つの場面」93.1%「MRSA感染症、感染性胃腸炎の追加予防策」93.1%「下痢嘔吐の患者の手洗い」96.6%「防護具で一番先に外すもの」96.6%「薬剤調整前・清潔操作前・侵襲的処置前の手洗い」98.3%であった。正解率が100.0%の項目は、「標準予防策の対象者」「感染経路別予防策」「曝露時の初期行動」であった。

2. 調査票の回収は52名(89.7%)であった。今後への有益性は「大変参考になる」84.6%「参考になる」15.4%、理由は「感染について基礎から理解できた点が良かった」であり、内容は「大変良い」75.0%「良い」19.2%、理由は「2、3人に一人の指導者がつき採血の実施が行えたこと」「手洗いをして汚れが落ちていない部分を知ることができた」「採血の練習では、1つ1つ根拠を説明しながら教えてもらえてわかりやすかった」であった。

【考察】認定看護師からの講義で知識を得たのち、リンクナースの指導のもとで手洗いや採血が実施できたことで、より丁寧に指導を受け、採血時の具体的なアドバイスを受けられる有益な研修であったと考える。ミニテストの結果からも感染対策の基本の手技習得の知識向上に繋がったと考える。今後の課題として、研修では知識の理解は深まったが、感染予防対策の基本行動を定着させるまでには至らないことから、個々の配属場所で研修内容を把握したリンクナースとの連携を図り、継続的に関わる必要がある。(本報告は、文部科学省平成21年度助成事業「看護師キャリアシステム構築プラン」の一部である。)